

嚥下困難者の食事形態に関するアンケート調査結果 2017年版

アンケート送付施設の内訳

病院：21 施設

特別養護老人ホーム：22 施設

介護老人保健施設：15 施設

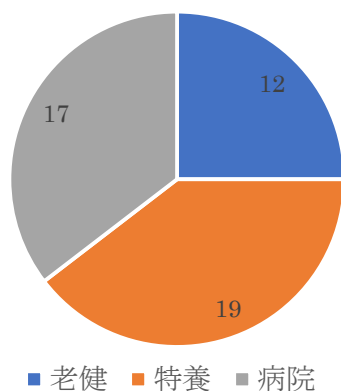
合計 58 施設

アンケート回収施設内訳

回収施設 48 施設

回収率 82.7%

アンケート回答施設



アンケート調査項目

①自施設で食事提供をされていますか。

②食事は自施設の調理場で調理されていますか。

③食事提供について

1.アンケート記入日に食事を提供した人数

2.「嚥下困難者用の特別な食事」を提供されていますか。

はいの場合、アンケート記入日に「嚥下困難者用の特別な食事」を提供した人数

3.食形態分類でご存じのものに✓をご記入ください。

4.自施設で使用している食形態分類に✓をご記入ください。(2.で「はい」の場合)

④知多半島摂食・嚥下機能連絡票の CD-R を希望される方は右の欄に✓をご記入ください。

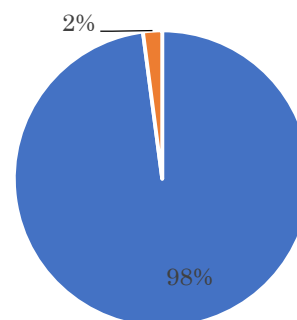
⑤主食・副食の形態調査

アンケート結果 [回答施設 48 施設]

① 自施設で食事提供をされていますか。

提供している施設 47 施設(98%)

提供していない施設 1 施設(2%)



■ はい ■ いいえ

② 食事は自施設の調理場で調理されていますか。

調理している 45 施設(94%)

調理していない 3 施設(6%)

③ 食事提供について

1. アンケート記入日に食事を提供した人数

48 施設 9068 名 ※延べ数の可能性が高い

2. 「嚥下困難者用の特別な食事」を提供されていますか。

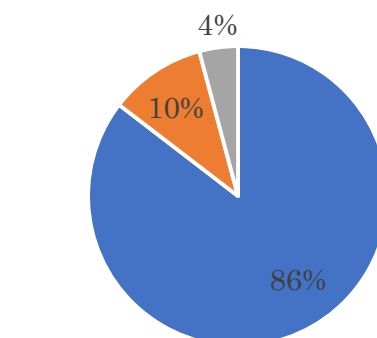
提供している 41 施設

提供していない 5 施設

無回答 2 施設

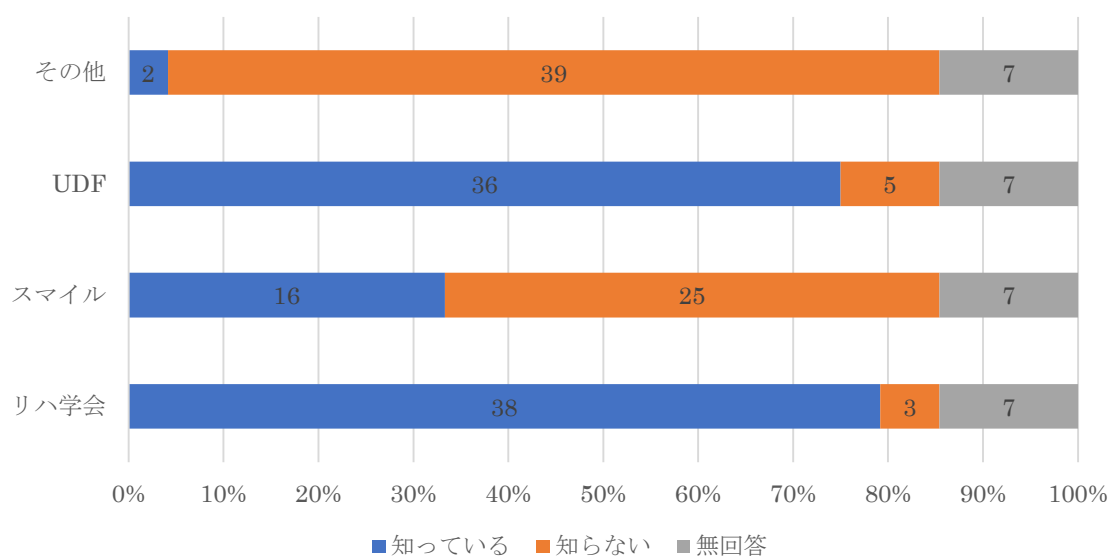
アンケート記入日に「嚥下困難者用の特別な食事」
を提供した人数

41 施設 1816 名 ※延べ数の可能性が高い



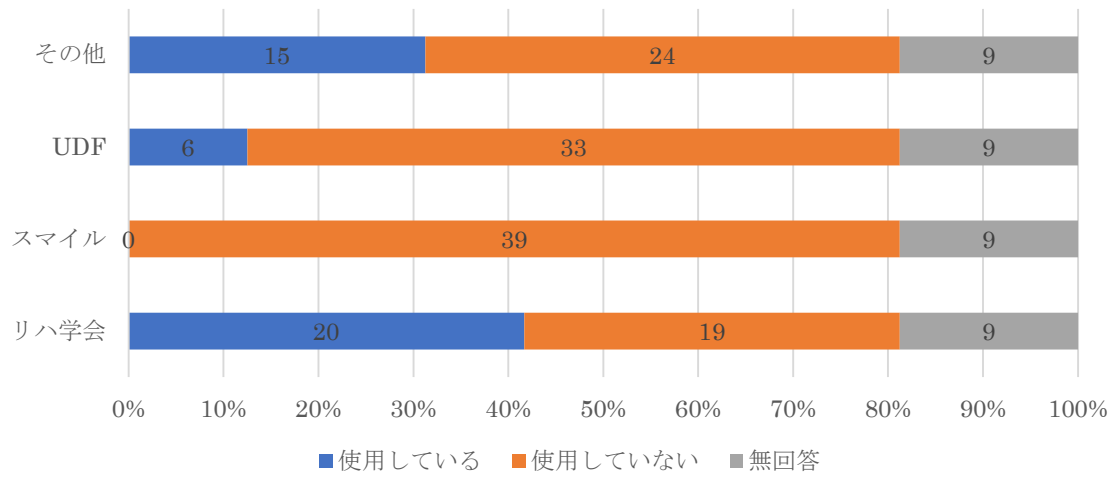
■ している ■ していない ■ 無回答

3. 食形態分類でご存じのものに✓をご記入ください。



■ 知っている ■ 知らない ■ 無回答

4.自施設で使用している食形態分類に✓をご記入ください。



④ 知多半島摂食・嚥下機能連絡票の CD-R を希望される方は右の欄に✓をご記入ください。

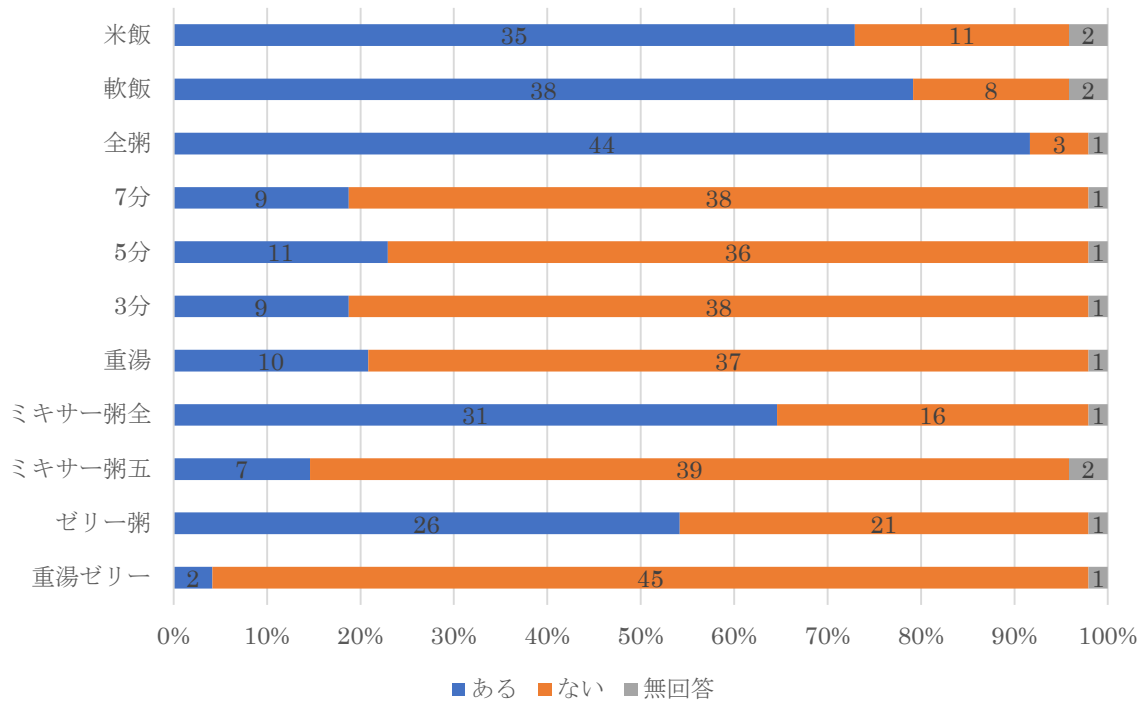
希望有り 22 施設

希望無し 25 施設

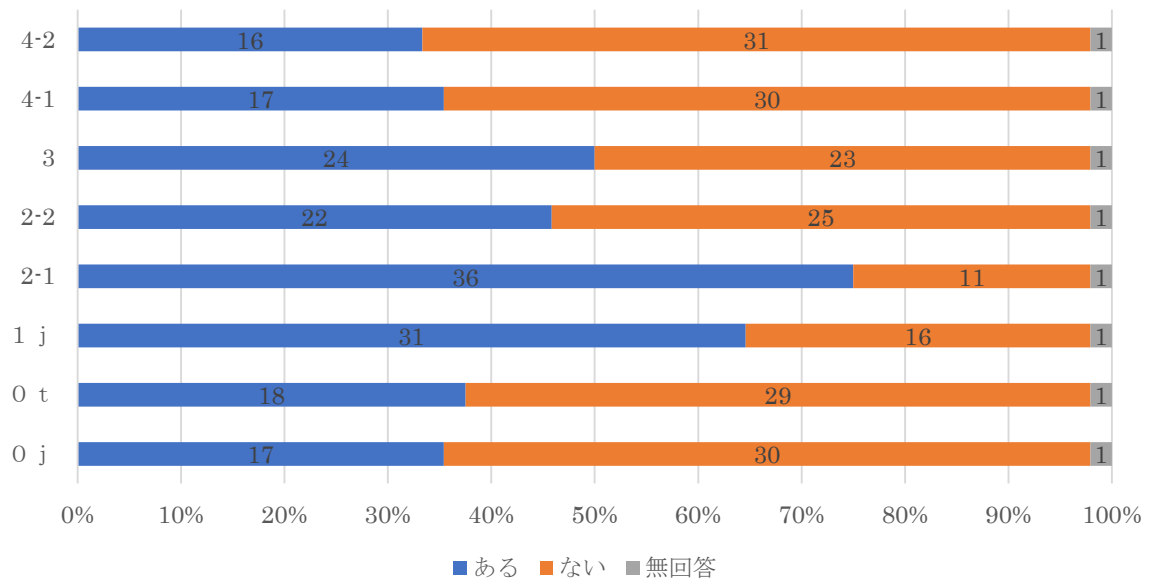
無回答 1 施設

⑤ 主食・副食の形態調査

提供している食事形態(主食)



提供している食事形態(副食)



アンケート調査の結果分析

前回のアンケート結果と比較。アンケート回収率は前回 49%に対し今回 82.7%と上昇した。食事提供は前回、今回ともに 98%の施設で食事提供をしているが、自施設での調理は前回 72%、今回 94%と自施設での調理する施設が増えていた。今回の調査では対象を病院、特養、老健に限定した事が影響している可能性がある。

1日の食事提供人数については前回 120施設で 7929名、今回 48施設で 9068名となっており、今回の調査では提供人数でなく、1日の延べ食事数が回答されていた可能性が高く前回との比較はできなかった。同様に嚥下困難者用の特別な食事の1日の提供人数も比較ができなかった。しかし嚥下困難者用の食事を提供する施設の割合は前回 63.9%、今回 85%と大幅に増加しており、嚥下困難者へ特別な食事を提供する必要性を感じている施設が増えている事が分かった。また、全体の食事提供人数に対する嚥下困難者用の特別な食事を提供している割合が前回 11%から今回 20%と増えており、実際に嚥下困難者用の食事を必要とする利用者が増えていることが推測できる。

食形態分類の認知度についてはリハ学会分類の 79%についてUDF分類が 75%と高かった。スマイルケアは 33%だった。一方で実際に使用している分類はリハ学会分類が 42%であるのに対し、UDF分類は 12%、スマイルケア 0%であり施設での基準を学会分類に近づける動きが進んでいる事がうかがえた。その他には嚥下食ピラミッドや独自の分類が挙げられた。

食形態分類の前回との比較。副食は学会分類のコード 1j と 2-1 は半数以上の施設で提供されていた。主食もゼリー粥の提供が前回 6.6%に対し今回は 54%、またミキサー粥は前回 50%、今回 68%に増えており、副食の形態に主食の形態を近づけた結果と思われた。